

# 海外での鳥扱い説明書

## 鳥扱いの基礎知識

**鳥**インフルエンザウイルスに感染した鳥と接触したヒトが、まれに鳥インフルエンザを発症することがあります。

**世**界では、アジアやアフリカ、中東で、これまでに600人以上が鳥インフルエンザを発症、350人以上が亡くなっています。

**鳥**インフルエンザは、鶏やアヒルなど、飼われている鳥だけでなく、野鳥にも感染していることがあります。

## 鳥扱いの具体策

**養**鶏場、鳥の羽をむしるなどの処理をしているところ、鳥を売買している市場に不用意に近づかないようにしましょう。

**弱**った鳥や死んだ鳥にさわったり、鳥のフンが舞い上がっている場所で、ホコリを吸い込まないようにしましょう。

**外**出先から帰ったらせっけんで手を洗うなど、日常的な感染症予防を心がけましょう。

## 鳥扱いの注意点

**発**生国からの帰国時に発熱やせきがある方、鳥インフルエンザに感染した鳥（死んだ鳥を含む）や患者に接触したと思われる方は、検疫所の担当者にご相談ください。

**帰**国時には症状がなく、帰宅後に発熱やせきの症状が現れた場合は、医療機関を受診し、鳥インフルエンザの発生地域に渡航していたことをお知らせください。ご不明な点は、最寄りの保健所にご相談ください。

# キケンな蚊、どうする蚊？

## さされないために何ができる蚊？

**長** 長ズボンの服を着用し、肌を出さないよう心がけましょう。

**虫** よけスプレーや蚊取り線香、殺虫剤を積極的に使いましょう。

**夕** 方はもちろん、昼夜も、また都市部（特に家の中）でも注意しましょう。

## さされるとどんな病気にかかると蚊？

**マ** ラリア

【症状】

寒気、発熱、息苦しさ、目の充血、嘔吐、頭痛、筋肉痛

【特徴】

全世界で年間、2億人の患者、約65万人以上の死亡者が報告されています。

媒介する蚊は、山間部や田園地帯を中心に日没後に出没します。夜間の外出は注意しましょう。

【媒介する蚊】

ハマダラカ

**デ** ング熱

【症状】

突然の発熱、激しい頭痛、関節痛、筋肉痛、発疹

【特徴】

全世界の100以上の国で流行しています。年間5000万～1億人の患者が発生していると考えられています。

軽症ですむ場合が多いものの、まれにデング出血熱という重症な疾患になる場合があります。

【媒介する蚊】

ネッタイシマカ、ヒトスジシマカ

**チ** ングニア熱

【症状】

突然の発熱、激しい頭痛、関節痛、発疹

【特徴】

東南アジアを中心に流行しています（特にフィリピン、インドネシア、タイ、マレーシア、シンガポールなど）。媒介する蚊は日中、都市部（時に家の中）にも出没します。

【媒介する蚊】

ヒトスジシマカ、ネッタイシマカ

## 海外でさされたら何をすべき蚊？

**海** 外で蚊にさされて熱が出た場合は、できるだけ早く医療機関を受診してください。

**帰** 国時に発熱や心配な症状がある方は、検疫所の担当者にご相談ください。

# 狂犬病から身を守る 7カ条

## 狂犬病を知る3カ条

**さ** まざまな国で今なお発生している感染症です。先進国でも感染する可能性があります。

**犬** だけでなく、猫、コウモリ、キツネ、アライグマなど、発症したさまざまな動物にかまれてうつります。

**感** 染して発症すると、有効な治療法はなく死に至ります。

## 狂犬病の感染を防ぐ2カ条

**狂** 犬病に感染した動物を、外見では、必ずしも判断することはできません。海外では、素姓のわからない動物にむやみに近づかないようにしましょう。

**狂** 犬病の流行地域（アジア、アフリカ等）に渡航し動物と頻繁に接触する場合は、渡航前に狂犬病ワクチンの接種をうけましょう。

## 狂犬病の発症を防ぐ2カ条

**動** 物にかまれた場合は、すぐに傷口をせっけんとうでよく洗い、できるだけ早く医療機関で傷の処置をしましょう。また、狂犬病ワクチン接種の必要性について相談しましょう。

**動** 物にかまれたなど、感染の恐れがある場合は、帰国時に必ず検疫所にご相談ください。検疫所では医療機関の紹介も行っています。